

みんなで考えよう抗菌薬の使い方

— 私たちができること —

問い合わせ先 和水町立病院 ☎0968・86・3105



風邪をひいて病院に行った経験はどなたにもあると思います。風邪はウイルスが鼻やのどにくっついて、くしゃみ、鼻水、せき、のどの痛み、発熱などがでることを言います。

細菌とウイルスは同じもの？

細菌は一つの細胞でできています。

細菌は栄養さえあれば自分で増えていくことができます。ウイルスは自分の細胞を持ちません。ヒトの細胞の中で増えていきます。

薬剤耐性(AMR)の拡大を防ぐ6力条

- 1 抗菌薬は医師の処方箋をもらって服用する
- 2 抗菌薬は医師の指示通り飲み切る
- 3 抗菌薬をとって置いて、あとで飲まない
- 4 抗菌薬を人にあげない、もらわない
- 5 分からないことは医師や薬剤師に聞く
- 6 うがいや手洗いなどで感染症予防を心がける

※AMR臨床リファレンスセンターのサイトから作成

ウイルスに抗菌薬は効くの？

ウイルスは大きさや仕組みが細菌と違うので抗菌薬は効きません。ウイルスによる感染症を治療するには、そのウイルスに効果のある抗ウイルス薬を使用しなければなりません。



必要のない抗菌薬をのんではいけません！

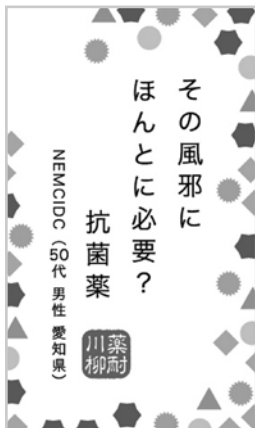
風邪の時に限らず、体調が悪い時「とりあえず抗菌薬を出してください」という人がいます。「何ものまないよりマシだろう」と思っていたらそれは間違いです。

実は、皆さんの体の中には既に耐性菌がいます。ほとんどはいつの間にか他人から移ってきたものか、今までにのんだ抗菌薬によって生まれたものです。これらの耐性菌は繁殖力が強く、他の善玉菌に抑えられて細々と生きています。しかし抗菌薬は善玉菌も殺してしまうため、ライバルがなくなった耐性菌はここぞとばかりに繁殖を始めます。

つまり、必要のない抗菌薬をのむということは、耐性菌があなたの体の中で増えるチャンスを与えてしまうということです。

子や孫の子や孫のために

抗菌薬は医療界における20世紀最大の発明と言われています。抗菌薬のおかげで人類の平均寿命は飛躍的に伸びました。しかし抗菌薬の使い過ぎで耐性菌がどんどん増えています。しかも21世紀に入ってから新しい抗菌薬はほとんど生まれていません。このままでは22世紀には抗菌薬はほとんど使えなくなってしまうでしょう。貴重な財産である抗菌薬を未来に残すため、私たちができることを今日からでも実践してほしいと思います。



今 回は、神尾城跡の縄張り（**城跡（小山）の地形**）を検討します。

東西に主軸を持つ鋭角三角形の独立した山です。背面は、東端が広く、西端ですばまります。東西の長さ400m、幅は東端で230m、西端が15mです。山の斜面は、途中から凝灰岩の絶壁になります。B区と麓の高低差は、43・2mで、要害の地に築かれています。ただ、城跡西端のK区だけは、高低差が、8・3mに留まります。

城跡の周辺 東下に十町川、南下に和仁川が流れており、城跡の南東下約300m先で合流します。これらは、水濠の役割を果たします。高畑地区は、東西120m、南北50mの区域で、上位が城跡の斜面に食い込みます。

「I区」山頂に、狼煙場らしき痕跡と西下に平地があります。

「J区」I区の西側崖面に、大規模な段状地形が出来ています。西下のK区とは、5mの高低差があります。

「K区」城跡の西端部で、広い平地があり、城跡の掘め手です。

「D区」長靴状の尾根筋に、同心円の平地があります。建物の存在が考えられます。

「E区」城跡の大手口と思われる。

「L区」敵方を追い込む場所と思われる。

「小結」高低差8・3mのK区が、防禦上、唯一の弱点地です。J区の段状地形は、これを意識しての造営と思われる。

「G区」山頂には、広い平地があります。ただ、整形の度合は、高くありません。北直下に空堀と土塁があり、東端は、堀切4に繋がると考えられます。

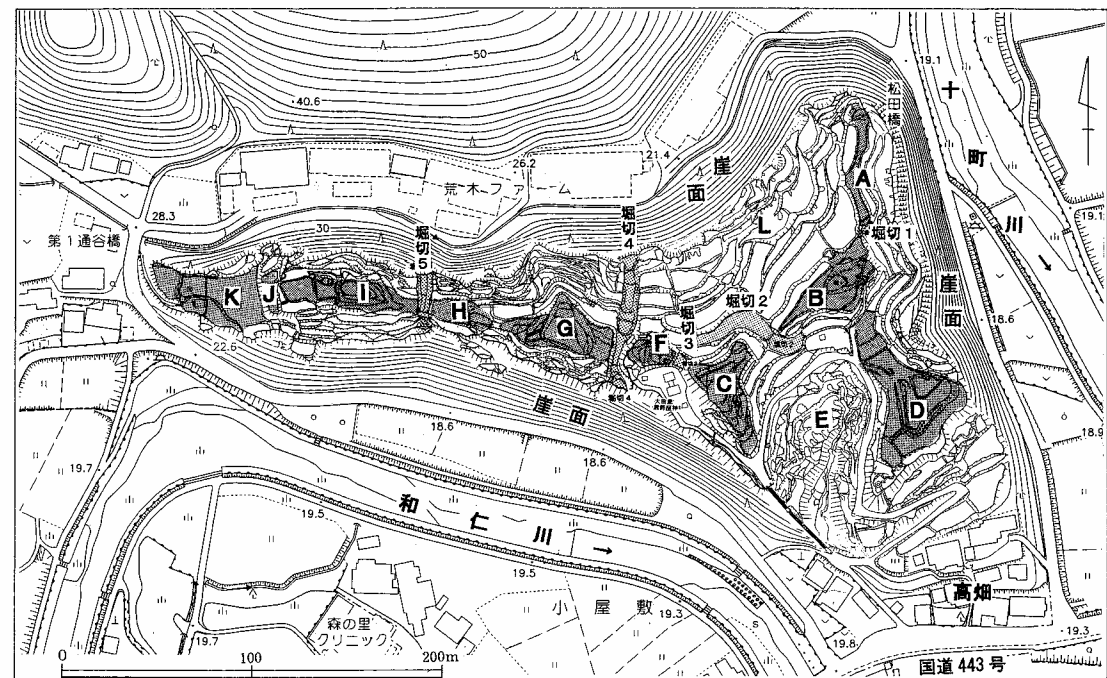
「H区」造成の度合が高く、完全な平地です。西下の堀切5は、堅堀そのもので、凝灰岩の岩盤を北下へ掘り窪めています。

「F区」堀切に挟まれた主軸尾根の残存部で、自然地形が目立ちます。

「C区」山頂は、整地された円形の平地で、建物の存在も考えられます。一方、周りの北東側主軸尾根や南東側派生尾根には、自然地形が目立ちます。北東下に堀切2と、西下に堀切3があります。堀切2は、B区とC区を断ち切り、北西端から空堀に変化している様です。現在は帯状地形で、C区の北下を走行します。堀切3は、C区とF区を断ち切ります。

「B区」山頂は、「高城」と呼ばれ、山頂を削り出した三段の小規模な高台があります。神聖な場所でしょう。A区との間に、小規模な堀切1があります。

「A区」痩せ馬地形を、さらに削り落とし



神尾城跡全体縄張り図

歴史調査の楽しみ方

神尾城跡

17

大田幸博
(元・菊水町史編集委員会副委員長)